

当園では、平成27年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や、園運営の状況を振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、さらに向上するための非常によい機会となりました。、さらに向上するための非常によい機会となりました。
今年度の学校評価結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流を通して)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培体験、飼育活動、行事を通して)
4. 豊かな感性、創造力、表現力を育てる。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然に身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「ごめんなさい」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「どうぞ」という 謙虚な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を理解する目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身に付けることを重点目標とする。また、自園の自然豊かな環境と少人数での教育環境の長所を認識し、環境を十分に活かした教育を行うことを重点目標とする。また、今年度は、異年齢保育の関わりを通し、同年齢保育の取組を深める中で、カリキュラムマネジメントの適切な実施に取り組み、職員の保育・教育への振り返りの着眼点がどのように変化し、向上していくかを検討しながら、職員の指導力向上に努めたい。また、自園の教育の特色である栽培体験を中心とした食育をさらに充実し、幼児期における食の重要性に着目した上で教育内容を深める。また、園での活動を積極的に保護者へも発信し、幼児期の食の重要性に対する保護者の意識も高めていく。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為のどのような取り組みがなされているか。	A	教育方針や目標については、定期的な会議で職員間で話し合いや振り返りを行い、共通理解を深めている。教育方針を中心にしながらも、目の前の子どもの育ちや課題に応じて、柔軟に保育内容を計画するよう取り組んでいる。また、行事などの内容についても教育方針・目標に沿い、行事のねらいや目的を再確認すると共に、保護者のニーズも加味したものになるよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	カリキュラムの評価・反省を行い、日々の保育と計画に活かされるよう取り組んでいるか。	A	日々の保育の振り返りは、毎日、保育日誌、週案に記録し、週の保育の状況や子どもの姿を振り返り、次週の週案にも訂正を加えながら、常に子どもの育ちに沿ったものを意識している。また、毎月末に反省点をまとめ、次の月の保育と計画に活かしている。職員会議において、日常の保育内容や自由保育での子どもの見取りの重要点や、子どもへの配慮点について話し合い、課題を持ち、次の保育計画にいかしている。週案作成時には、保育内容や自由保育と設定保育のバランスを考え、子どもの日常の興味や関心に沿った、指導計画を作成している。
3	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	B	子ども達の興味や関心に応じて好きな遊びが主体的にできるように、教師の配慮や環境構成を行っている。子どもの自由遊びの中からの興味や関心をもとに教師がカリキュラムを作成し、音楽や造形、体育遊び等、創造的な活動や身体全体を使って行う活動を、多数実践している。中でも、園環境を生かした山登りやマラソン等、運動にも力を入れている。
4	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	A	子ども達が日常の生活の中で、異年齢の交流がもてるよう、教師は配慮している。どの年齢の子どもも、自分のクラスや学年にとどまらず、自由に部屋を行き来し、関わり遊ぶ姿が日常ある。そののは、教師間の連携が必要であり、常に情報交換を行っている。異年齢交流保育(ウキウキデー)では、子ども達が主体的に遊びを進める環境づくり重要視している。環境づくりにおいては、教師が、子どもの遊びの様子を観察し、どう環境を変え、発展させていくかのポイントを職員間で話し合い、次の環境設定を実践している。子どもの遊びにいかにか添っていくか、また、そこからいかに導き環境を設定していくかを検討し取り組んだ。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	園内研修では、月に1回程度、公開保育を実施し、職員間で教材研究を行い、研究意識を高めていけるよう取り組んでいる。それに加え、今年度は、日常の教師と子どもとの関わりをビデオに収め、ビデオを観ながら、リアルタイムで、その関わりの姿や、子どもの遊びについて、フリートークしながら、意見交換をした。様々な教師の意見や着眼点にふれることで刺激になり、視野も広がり、保育への取組の意識にも変化が見られつつある。また、経験年数や担当学年に応じて研修を選択し、自ら積極的に参加し、それぞれの保育力向上に取り組んでいる。

6	安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園内の安全点検を定期的に行い、修理等の対応も早急に実施した。火災・地震を想定しての避難訓練を定期的に行い、緊急時に備えている。また、不審者の侵入の供え、保護者や来園者の進入経路を少なくした。来園者への園内立入証着用を徹底した。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園児のその日の体調等を全職員が把握し体調の変化に即時対応できるようにした。また、日頃の感染症の流行や対策等についても保護者への発信も徹底した。保育室内や、トイレの消毒等も行った。嘔吐などの処理のマニュアルの確認と徹底を行い職員間の意識を高めた。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	地域の老人施設への慰問や地域の学校との交流等積極的に行った。また、一人暮らしの方へのプレゼント製作等、地域への協力にも努めた。園での様々な栽培体験を通し、収穫した野菜を調理し食べることで、食への関心は高まっている。また、食育だよりの発行により、保護者に過程での食について振り返ってもらう機会を作った。

【評価の基準】

A：十分に達成されている B：達成されている C：取組はされているが十分でない D：取組が不十分である

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の作成から、実践については取り組んでいるが、週や月の子どもの姿や、反省・課題を次に改善し取り組む意識を、さらに高めていきたい。近年の、子どもの様々な育ちの状況や、個々のおかれている環境等も加味して、指導の観点を職員間でしっかりと共通理解していく必要があると考える。子どもの心の育ちが基盤にあることを中心とした、子どもの見取りが出来るように取り組んでいきたい。
2	指導と関わり	子どもの興味や関心に添った環境設定に取り組んでいるが、個々の能力に応じた柔軟な指導や関わりについて、さらに職員間で深めていきたい。集団としての指導や関わりは勿論であるが、その中の個々への指導や関わりをうまく集団に取り込んでいくことも今後の課題としていきたい。
3	安全管理体制の整備	災害の際の避難経路の再確認と、備蓄関係の整備も行いたい。また、災害時の対応について、再度、保護者への啓発を行い、災害時に活かせる連携体制に努めたい。
4	地域との連携	園児が地域の行事に参加し、演技等を披露している。これまで以上に積極的に地域との交流を深めつつ、地域の方にも園の行事に参加していただく機会を増やしていきたいと考えている。また、園の特色である自然環境を、地域の方にも利用していただく等、地域とのつながりをもてる園行事についても検討していきたい。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。青山よさみ幼稚園の先生方の、職員間の連携、個々の育ちに沿った、一人一人への丁寧な関わりを、今後も継続してほしい。この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されることを期待します。